

こどもがしるべき

テモテへの

パウロがローマでの（にじこめられること）をえて、マケドニヤでをしていました。そのとき、パウロがエペソでをしているテモテにあてていたののうちの１つがテモテへのです。

エペソは、とグノーシスのためになでした。ユダヤなは、イエス・キリストをメシヤとじながらも「いはによってではなく、モーセのをってこそ、われるのだ」とえました。グノーシスは、ギリシヤので、たましいだけがだとっていました。をだとわないので、なえやをしたりしました。（やという、ににするののをするや）となになったのです。なによりも、イエス・キリストの（イエス・キリストはとしてられたこと）をめたのですが、（としてられたこと）はめませんでした。

パウロは、テモテへのをして

１つ、のまちがったをなくして、ただイエス・キリストをしてのいをしくって、ないをしなければならないとしました。

２つ、のと、など、のが、、にのをせるように、らにするをしました。

３つ、まことの、まことののをして、テモテがのになるべきだとしました。

レムナントもやはり、イエスがキリストというしいをらせるえやにつ、ないがです。パウロにったいテモテを、エペソのとしててられたは、レムナントをものでとしててることをっておられます。９には、を、としてばれたがされた、のこと、のをつけるようにりながら、テモテへのをしましょう。